



# 大すきいっぱい西北の子

～学びづくり、くらしづくり、仲間づくり～

令和6年11月22日

長崎市立西北小学校

文責：校長 江原芳樹

R6 第7号

昨年の学校だより11月号を読み返しました。季節の遅れを感じつつも、石路（つわぶき）の花に足早に過ぎていく秋を惜しむ様子を書いていました。ところが今年はまだ石路の花もほとんど見かけません。JRの線路沿いには、ススキの穂が広がり、秋の気配を感じられるようにもなりましたが、校庭の柿の木は、葉を色づけることもなく実を熟していません。今年は昨年以上に秋が短いようです。

それでも空に目をやると、空気が澄み空が高く高く伸びていくように見えます。雲もどんよりとまとまることがなくなりました。遅すぎる秋ですが、しっかりと季節を感じる暮らし方をしたいものだと考えています。

## 学習状況確認日

今年から通知表を2回制としました。他県の動向に合わせ、職員の業務改善の一つとしての取組でもありました。

西北小学校では、10月11日を「学習状況確認日」と位置づけ、今年1回目の通知表を渡しました。これまでは、1期末に通知表を渡していたので、夏休みの課題や夏休みの生活など、通知表をもとに子どもたちと十分に時間を確保して話をするできませんでした。ところが今回は、通知表を渡すだけの1日を確保することができました。全校集会で通知表の意味を話し、各学級で担任から通知表を受け取ります。一人ひとりと十分に話をする時間も確保できました。通知表を受け取る子どもたちの様子にも変化を感じました。受け取った子どもたちが、しっかりと通知表に目を通していているのです。担任より学習への取組を様々評価してもらい、その上で通知表を受け取ることで、自身の学習の取組について子どもたちなりにしっかりと考えているようでした。

西北小学校では、「学びに向かう力の育成」の研究を行っています。学習するのは子どもたちです。「させられるのではなく、自分のために、自分から取り組む力を身に付けさせたい」と強く願っています。

子どもたちが生きるこれからの社会は、予測不可能な世の中だと言われます。そうした世の中を生き抜いていくには、「言われたことを素直にできる」だけでなく、「自分で考え、自分で正しく判断できる力」が求められます。「自分勝手な判断」ではだめです。

「自分で正しく判断できる力」「自分で責任をもって判断できる力」

です。そのためにも、今回のように子どもたちが客観的に自分の学習状況を見つめ直す機会となったことをとても嬉しく感じています。



## 第3回及び第4回 Qubena 活用推進期間

10月は、長崎市全小学校で、Qubena 活用推進月間でした。西北小学校では、1学期にも「Qubena 活用推進期間」を設け、子どもたちが自主的に取り組むことを推進してき

ました。2週間の活用推進期間を設定し、その期間に問題に取り組む問題数を確認していききました。1学期の2週間の期間では、多い子どもで8000問以上の問題に取り組む子どもが登場するなど、積極的な取組が見られました。

今回の10月を前期と後期に分けた、第3回及び第4回のQubena活用推進期間では、第3回で9000問以上が複数人、そして第4回でついに10000問以上の子どもが登場しました。驚きです。

学年の上位10名には「学年上位賞」を渡すよう伝えていましたが、子どもたちの頑張りに表彰の種類を増やしました。学年によっては、2週間で1000問以上がんばっても上位10人にはなれない状況だったからです。「1000問オーバー」「2000問オーバー」という新たな賞をつくることになりました。

10月16日から10月31日まで取り組んだ第4回Qubena活用推進期間では、学年上位賞の他に、「1000問オーバー」が65名、「2000問オーバー」が2名も登場しました。

AIドリルであるQubenaはまだまだ課題はありますが、自分で取り組む課題を選択していくことで、子どもたちの主体性や意欲の高まりがあるのは確かです。今後も活用推進の取組を継続していきたいと考えています。

### 《校長散歩道 No. 18》

「陰口（かげぐち）」は、「本人がいないところで、その人の悪口を言うこと」です。誰もが知っていて、おそらくは、多くの人が実際に口にしたことがあると思います。私も例外ではありません。むしろ、多い方かもしれません。

「陰口」の反対語として、「陽口（ひなたぐち）」という言葉があるそうです。

意味は、「本人がいないところで、その人の長所について、大いに語り合うこと」です。造語のようですが、積極的に使いたい言葉だと思います。「ひなたぐち」という響きがなんともいいと思いませんか？昔の日本人の言葉の感性は本当に豊かです。

若い頃、同じような意味としてこんな言葉にも出会いました。

その人のいないところで その人を悪く言うのは  
直接言うより 激しくその人を怒らせる  
その人のいないところで その人を褒めるのは  
直接褒めるよりも はるかに大きな力がある

学校では、「ふわふわ言葉を使おう」と相手を思いやる言葉を意識した取組をします。直接的に使う「ふわふわ言葉」と、当人はいないもののその人の長所をみんな確認し合う「陽口（ひなたぐち）」を学校で広めていけたら、より素晴らしいと考えます。

また、先日保護者の方から声をかけられました。「学校だよりを楽しみにしています。」とのこと。私が飛び上がるほど嬉しいのはもちろんですが、それを伝えてくださった保護者の方も、私に負けないぐらいに嬉しそうにされているのです。「ふわふわ言葉」や「陽口」は、言われた側だけでなく、言った側にもプラスの影響を与えるものです。こんな言葉が広がっていく西北小学校、西北の町であってほしいと願います。